

文化2年閏8月の受領証

文化2年、秋の田の刈り入れに忙しい平井村を、神田弥五兵衛が訪れて渡した1両1分の受領書。

この年、主人竹中重寛は二条城を警衛する「二条在番」だったので、弥五兵衛もつき従ったようで、京都在勤の合間をぬっての、あわただしい訪問でした。墓の地主庄兵衛には面会できませんでした。

この受領書は、文化5年4月9日付の手紙に同封され、弥五兵衛から返却されました。

覚
一 ^{いちりょういちぶ} 金 ^{きん} 老 ^{らう} 岡 ^{おか} 老 ^{らう} 歩 ^ほ 也
右 ^{みぎ} 者 ^{もの} 当 ^{あた} 所 ^{ところ} 於 ^{おいて} 地 ^ち 内 ^{ない} 竹 ^{たけ} 中 ^{なか} 半 ^{はん} 兵 ^{べい} 衛 ^{ゑい} 尉 ^{ゑい} 重 ^{じゆう} 治 ^ぢ 御 ^ご 塚 ^{つか} 敷 ^{しき} 地 ^ぢ 料 ^{りょう} 並 ^{ならび} 二 ^に 石 ^{いし} 灯 ^{とう} 籠 ^{ろう} 且 ^{かつ} 又 ^{また} 人 ^{ひと} 足 ^{あし} 諸 ^{しよ} 入 ^い 用 ^{よう} と ^{して} 被 ^さ 差 ^さ 置 ^{おかれ} 、慥 ^{たしか}
ニ ^に 受 ^う 取 ^と 申 ^{まを} 候 ^う 。然 ^{しか} 上 ^る ハ ^は 近 ^{ぢか} 々 ^々 致 ^{いた} 世 ^せ 話 ^わ 出 ^で 来 ^き 可 ^ま 仕 ^つ 候 ^う 。以上
文化二年 ^{うしうろ} 丑 ^{うし} 閏 ^{うる} 八 ^{はち} 月 ^{がつ}
平井村庄屋 太右衛門 印 同村年寄 新右衛門 印
竹中 ^と 遠 ^と 江 ^え 守 ^{のかみ} 様 ^{さま} 御 ^ご 家 ^け 来 ^き
神田弥五兵衛様
※上記文中の竹中半兵衛尉重治御塚を、『東播新聞 昭和42年5月21日付』は、竹中半兵衛重治御塚に作る

■■引用（墓所整備の古文書7通）

■墓所整備については、松村義臣氏が昭和41年に三木市平井を訪問、古文書を書写し、翌年に発表した以下2種の論稿があります。

松村仏都平名義「竹中半兵衛墓所の整備資料」『神戸史談223号』（神戸史談会、昭和42年3月25日発行）。

松村仏都平名義「みなぎ野散歩第51回～第56回・竹中半兵衛墓の資料」『東播新聞 昭和42年5月14日付～同年6月18日付』（東播新聞社。毎週日曜日発行）。

■7通とも書状の引用は『神戸史談223号』より。よみがなは新しく付けました。